

このローカルルールはアンプレイブルの球やペナルティーエリアの中にあることが分かっている、または事実上確実である球には使うことはできません。

暫定球をプレーした場合で、元の球も暫定球も見つけないことができない場合、その後このローカルルールを見つからない暫定球に適用することができます。

ローカルルールひな型E-5 図1:見つからない球

A 球の基点
B フェアウェイの基点
● 救済エリア

プレーヤーの球が見つからない場合、そのプレーヤーはストロークと距離の救済を受けることができます。あるいは、ローカルルールひな型E-5が採用されている場合、そのプレーヤーには2罰打で、下記の救済エリアに球をドロップし、その救済エリアからプレーする追加の選択肢があります：

基点	救済エリアのサイズ	救済エリアの制限
A. 球の基点：元の球がコース上に止まったと推定される地点(A点)。 B. フェアウェイの基点：球の基点に最も近く、球の基点よりホールに近づかないプレーしているホールのフェアウェイの地点(B点)。	次の間のすべての場所： ・ホールから球の基点(A点)を通る直線(加えて、その直線から外側へ2クラブレンジスの範囲)。そして、 ・ホールからフェアウェイの基点(B点)を通る直線(加えて、その直線からそのフェアウェイ側へ2クラブレンジスの範囲)。	救済エリアは： ・球の基点よりホールに近づいてはならない。そして、 ・ジェネラルエリアでなければならない。

プレーヤーへの注意：
救済エリアはかなり広範囲となる可能性が高いので、球が最初に地面に落ちた箇所からかなりの距離を転がったとしても、その救済エリア内であれば再ドロップする必要はない。

ローカルルールひな型E-5 図2:アウトオブバウンズの球



プレーヤーの球がアウトオブバウンズであることが「分かっている、または事実上確実」な場合、そのプレーヤーはストロークと距離の救済を受けることができます。あるいは、ローカルルールひな型E-5が採用されている場合、そのプレーヤーには2罰打で、下記の救済エリアに球をドロップし、その救済エリアからプレーする追加の選択肢があります：

基点	救済エリアのサイズ	救済エリアの制限
A. 球の基点：元の球がアウトオブバウンズとなったときにコースの境界線を最後に横切ったと推定される地点(A点)。 B. フェアウェイの基点：球の基点に最も近く、球の基点よりホールに近づかないプレーしているホールのフェアウェイの地点(B点)。	次の間のすべての場所： ・ホールから球の基点(A点)を通る直線(加えて、その直線から外側へ2クラブレングスのコース上の範囲)。 - そして、 ・ホールからフェアウェイの基点(B点)を通る直線(加えて、その直線からそのフェアウェイ側へ2クラブレングスの範囲)。	救済エリアは： ・球の基点よりホールに近づいてはならない。そして、 ・ジェネラルエリアでなければならない。

プレーヤーへの注意：

救済エリアはかなり広範囲となる可能性が高いので、球が最初に地面に落ちた箇所からかなりの距離を転がったとしても、その救済エリア内であれば再ドロップする必要はない。